

地域支援だより

きらりNet



平成30年10月26日

第87号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

本校中学部の進路指導の一つに、**高等学校への進学**を目指した取組があります。

「車椅子を利用しているけれども、高等学校で生活できるのか」「生活や学習に必要な支援や配慮を、事前に高等学校にお願いしたいができるのか」等、多くの疑問や不安がありますが、目標に向け、これまでどのようなことに取り組んできたか、いくつかの例を紹介します。

～高等学校 進学をめざした取組例～

5月 希望高校調べ

希望先の高等学校からパンフレットを取り寄せ、学校のことを調べます。エレベーターがあるのかも、しっかり調べます。

6月 教育相談



希望先の高等学校に教育相談に行きます。学校の説明を聞いたり、こちらの希望を伝えたりします。

施設設備の状況を自分の目で確かめる大事な機会でもあります。通学方法、バス停の場所、トイレの設備、教室の入り口の広さ、段差の有無等々を確認します。

8～10月 学校説明会への参加

各高等学校主催の学校説明会に参加します。受験希望の他校の生徒がたくさんいるので緊張や不安も高まります。何が不安か、しっかり生徒と保護者と相談できるといいでしょう。

年間を通して ～自立活動～

「自立活動」の時間には、自己理解を深めることを目的に、進路希望を実現するために自分に必要なことは何かを学習します。机上の学習のみでなく、実際に自分で体験することも大切です。公共交通機関の利用、休み時間内にトイレを済ませ、教室移動も済ませること、友達とコミュニケーションをとること・・・。

繰り返し体験し、振り返ることで自己理解も深まります。



進学にあたり、本人や保護者が今どう考えているのか、その時その時で確かめて、丁寧に進路指導を進めていきたいものです。
日々の情報交換や面談を積み重ねましょう。

本校高等部への進学を希望する際にも、**教育相談**や**体験学習**を実施します。いずれにせよ、希望する学校に早めに連絡を取り、相談することが必要です。「どこに進学すればいいのか迷っている」「どのように進めていけばいいのか分からない」等、疑問や不安がある場合こそ、早めの相談をお勧めします。



<参考>

秋田県教育庁特別支援教育課のホームページに「障害等のある生徒の高等学校進学にかかるガイド」が載っています。是非御覧ください。

障害等のある生徒の 高等学校進学にかかるガイド



一人一人の生徒が充実した学校生活を送るために

このガイドは、障害等のある中学生や高校生が、よりよい学校生活を送るために作成しました。本ガイドにおける障害（発達障害を含む）等のある生徒とは、医師からの診断がある場合や、保護者と学校が認めている場合をさしてします。

平成21年9月 秋田県教育委員会



実践紹介④ 中学部 総合的な学習の時間 (中学部 教科を主としたグループ)

中学部3組(教科を主としたグループ)の総合的な学習の時間では、2・3年生3名を対象に進路学習を行っています。

○主なねらい:「自分に合った仕事や進学先を考え、必要なことを理解して実行する(自己理解と進路決定)」

○学習を進める上で大事にしていること

①個人面談と関連付ける:最低月1回のペースで行う(生徒から要望があった場合も実施)

進路を考える上で生じる不安解消を意図しています。また、面談を通して、進路に関する情報整理を積み重ねることで、生徒にとっては大きな見通しにつながります。そして、見通しをもった生徒は、志望の動機の作文や面接練習にも取り組みやすくなります。

②体験的な活動を設定する:職場体験や他校での実力テストなど、学年や進路希望別にに応じて実施
合同で行う学校祭の出店準備や製品作りと販売は、協力しながら人の役に立つ経験を積み、自分の適性や働く意味を考えることを意図しています。

①②両方を通して、生徒に繰り返し問い掛けることは、「自分に合っているか?」です。新しく得た進路の情報ははじめ、職場や作業を体験して感じた苦楽、販売を通して得た充実感などを踏まえ、自分自身への振り返りを積み重ねることが、生徒に本当に合った進路決定につながると考えています。

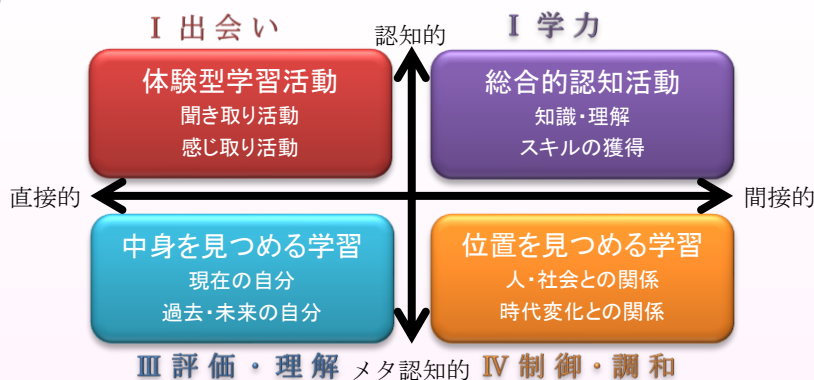


<9/11(火)中学部1組(各教科等を合わせた指導を主とする学習グループ)作業学習の体験>

廃油処理用の吸収パック「油グッバイ」のパルプちぎりの様子です。生徒たちは、油グッバイの製品や、作業工程などを学習した後、自分に合った工程は何かを考えてから体験に参加しました。実際に、複数の工程を体験した後は、生徒たちから「疲れましたあ…」「この作業好きかも!」など、たくさんの感想がありました。

教育専門監のコーナー

《総合的な学習の時間でのキャリア教育の取組》



- I 基礎学力を総合化する総合的認知活動(学力)
- II 学力の有用性を感じ新しい課題と出会う体験型学習活動(出会い)
- III 自己を理解し評価する内省的活動(評価・理解)
- IV 自己と他者のかかわりを知る活動(制御・調和)

参考文献:「メタ認知の視点から見たキャリア教育」

《体験を体験で終わらせない学習》

中学部では、総合的な学習の時間に、教科等で身に付けた知識やスキルを互いに関連付け、実際の場面で活用を図る体験型の学習を行っています。その体験を通し、既存の知識と現実とを比べる学びにより、新たな学びへの動機付けを図っています。

生徒は、体験の中で得た知識をその後の教科等の学習に広く活用することで、学ぶ意味をより強く意識します。また、自己を理解し評価する体験や学びの中で、自分がどのように考え行動したのか、自分自身の考え方の変化に気付いていきます。このように適切なコミュニケーションの中で、自分と他人を客観的に見つめ、自分の考え方や行動を修正し、新たな自分に気付किながら、今後の自分像を思い描いていきます。

中学部の総合的な学習の時間は体験を体験で終わらせない学習となっています。

〈文責:二階堂 悟〉

◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部主任 佐藤 忠浩

住所: 〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

E-mail: kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話: 018 (889) 8573 FAX: 018 (889) 8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

